



令和7年度病院薬剤師研修 神奈川県における薬剤師確保対策について

神奈川県 健康医療局 生活衛生部
薬務課 薬事指導グループ
令和8年2月6日

本日の概要

- 令和5年に国が薬剤師の偏在指標を公表し、本県は薬剤師全体では充足しているものの、病院薬剤師が不足していることが示されました。
- 本県では、皆様の御協力のもと、令和6年度に調査事業を実施し、この結果に基づいて、薬剤師確保に関する取組みを行っています。
- 本日は、令和6年度の調査結果を中心に、薬剤師確保に関する本県の取組み等についてお話しします。

目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

1. 薬剤師確保を検討する経緯

(1) 国の動向

- **薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ(令和3年6月)**
薬剤師の従事先には地域偏在や業態偏在があり、特に病院薬剤師の確保が喫緊の課題であることを指摘
- **第8次医療計画への反映(令和5年3月)**
国の通知・指針において、地域の実情に応じた薬剤師の確保策について、可能な限り具体的に記載するよう明文化
- **薬剤師確保計画ガイドラインの策定(令和5年6月)**
薬剤師確保計画の考え方や構造を示し、薬剤師確保のための取組を検討するにあたってのガイドラインを策定
- **薬剤師偏在指標の算定(令和5年6月)**
医療需要（ニーズ）に基づき、地域ごと、薬剤師の業種（薬局・病院）ごとの薬剤師数の多寡を統一的・客観的に把握できる薬剤師偏在の度合いを示す指標を導入

1. 薬剤師確保を検討する経緯

(2) 薬剤師統計によるデータ

- 県内の届出薬剤師数は24,212人（令和6年末時点）。
- 人口10万人あたり262.5人で、全国平均の265.8人を少し下回る状況。

薬剤師数（人）						
		H28	H30	R2	R4	R6
神奈川県	総数	22,104	22,913	23,872	23,718	24,212
	人口10万人対	241.7	249.7	258.4	256.9	262.5
全国	人口10万人対	237.4	246.2	255.2	259.1	265.8

1. 薬剤師確保を検討する経緯

(3) 偏在指標によるデータ① (全国との比較)

		薬剤師偏在指標 (現在) ※1	区域の別 ※2	薬剤師偏在指標 (令和18年) ※3	区域の別 ※3
全国	合計	0.99		1.09	
	薬局	1.08		1.22	
	病院	0.80		0.82	
神奈川県	合計	1.12	多	1.16	多
	薬局	1.25	多	1.32	多
	病院	0.80	少	0.76	少

※ 1 薬剤師の必要業務時間（需要）に対する、薬剤師の実際の労働時間（供給）の比率
1.0未満の場合、需要が供給を上回っている状態

※ 2 薬剤師多数区域を「多」、薬剤師少数区域を「少」と記載
少数区域の基準となる薬剤師偏在指標は、都道府県別0.85、医療圏別0.74(現在)

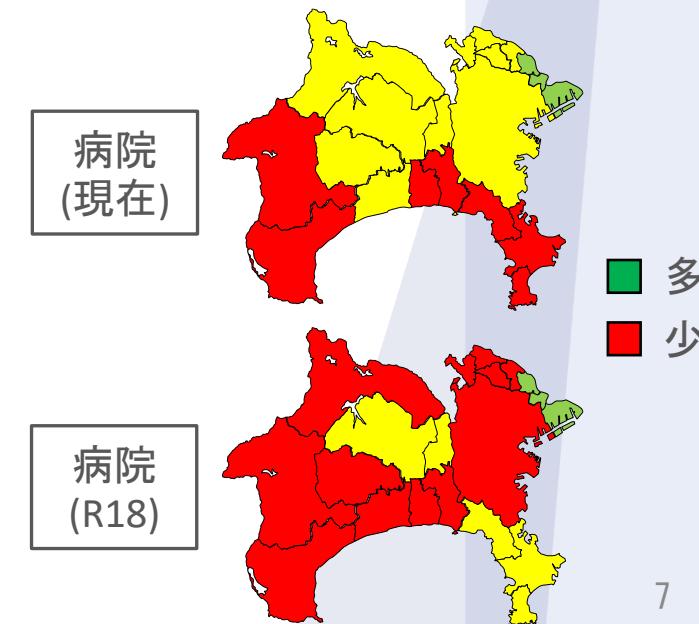
※ 3 薬剤師確保計画ガイドラインにおける目標年次（令和18年）での推計
少数区域の基準となる薬剤師偏在指標は、都道府県別0.80、医療圏別0.77(令和18年)

1. 薬剤師確保を検討する経緯

(4) 偏在指標によるデータ② (二次保健医療圏別、薬局及び病院)

薬局	薬剤師偏在指標 (現在)※1	区域の別 ※2	薬剤師偏在指標 (令和18年)※1	区域の別 ※2
横浜	1.32	多	1.38	多
川崎北部	1.32	多	1.23	多
川崎南部	1.48	多	1.42	多
相模原	1.20	多	1.26	多
横須賀・三浦	1.11	多	1.41	多
湘南東部	1.24	多	1.28	多
湘南西部	1.08	多	1.22	多
県央	1.06	多	1.15	多
県西	1.08	多	1.33	多

病院	薬剤師偏在指標 (現在)※1	区域の別 ※2	薬剤師偏在指標 (令和18年)※1	区域の別 ※2
横浜	0.81		0.77	少
川崎北部	0.82		0.68	少
川崎南部	1.08	多	1.03	多
相模原	0.76		0.70	少
横須賀・三浦	0.71	少	0.80	
湘南東部	0.68	少	0.64	少
湘南西部	0.74		0.72	少
県央	0.84		0.81	
県西	0.62	少	0.67	少



目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

2.本県の取組み（令和6年度）

薬剤師確保検討調査事業

本県における薬剤師確保の現状及び課題等を把握し、今後の対策を検討するため、アンケート調査を実施。

区分	対象	依頼方法	調査票の形式	回収数 (回収率)
病院	県内所在の全病院 (332施設)	各病院に直接郵送で依頼	紙又は電子 (Excel)	171施設 (51.5%)
薬局	次の団体に加盟する 県内所在の薬局 ・県薬剤師会 ・日本保険薬局協会	団体から会員に案内	電子 (Excel)	428施設 (-)
薬学生	県内外7大学の薬学生 (6年制の全学年 12,878名)	大学事務局から案内	電子 (Google Forms)	946名 (7.3%)

調査時期は、令和7年1月～2月（薬学生のみ1月～3月）

目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

3.令和6年度調査事業の結果 (1) 病院及び薬局調査

ア 勤務状況

- 病院は薬局に比べて、実労働時間が長い。

＜勤務年数＞

	病院	薬局
1位	7～10年(32.2%)	1～3年(22.9%)
2位	4～6年(21.6%)	4～6年(17.1%)
3位	11～15年(12.3%)	7～10年(13.8%)
平均	8.7年	8.6年

＜実労働時間（令和6年10月の1カ月間）＞

	病院	薬局
常勤	170.2時間	148.3時間
非常勤	105.3時間	69.1時間

3.令和6年度調査事業の結果 (1) 病院及び薬局調査

イ 退職理由（令和6年度）

- 病院は給与水準、薬局は勤務環境が1位。

<退職理由（複数回答可）>

	病院	薬局
1位	給与水準(21.1%)	働き方（勤務日数や勤務時間等）、 働く場所(勤務地)(ともに11.2%)
2位	スキルアップのための環境(17.5%)	理由不明(10.5%)
3位	職場の人間関係(17.0%)	給与水準(9.3%)
4位	異なる業界でのキャリアに挑戦 (15.8%)	職場の人間関係(8.9%)
5位	働く場所(勤務地)、 個人的理由(結婚)(ともに13.5%)	個人的理由(出産・育児)、 病気等の体調不良(ともに8.2%)

3.令和6年度調査事業の結果 (1) 病院及び薬局調査

ウ 薬剤師の充足状況

- 現在の業務量を前提としても、病院の7割以上が薬剤師不足と回答。

<現在の業務量を前提とした場合>

	病院	薬局
1位	やや足りない(42.7%)	足りている(52.3%)
2位	全く足りない(29.2%)	やや足りない(41.6%)
3位	足りている(26.9%)	全く足りない(5.4%)

<需要があるため今後業務を拡大したい場合や、現在は薬剤師不足のため実施できていない業務を今後実施することを想定した場合>

	病院	薬局
1位	全く足りない (55.0%)	やや足りない(50.9%)
2位	やや足りない(28.7%)	足りている(28.0%)
3位	足りている(14.0%)	全く足りない(19.2%)

3.令和6年度調査事業の結果 (1) 病院及び薬局調査

Ⅰ 業務の取組状況

- 実施中の業務で薬剤師が確保できれば拡大したい業務の1位は、病院が**病棟薬剤業務(診療報酬で加算対象のもの)**、薬局が**在宅対応**。

<実施中の業務のうち、薬剤師が確保できれば拡大を予定している業務>

	病院	薬局
1位	病棟薬剤業務(33.9%)	在宅対応(52.6%)
2位	医薬品情報管理(DI)(32.7%)	フォローアップ(30.4%)
3位	外来化学療法(26.9%)	一般用医薬品の取扱い(24.1%)

<現在は実施していないが、薬剤師が確保できれば実施したい業務>

	病院	薬局
1位	ポリファーマシー対策(38.6%)	健康サポート機能(37.9%)
2位	薬薬連携の推進(32.2%)	高度薬学管理機能(34.3%)
3位	薬剤師外来(32.2%)	地域での薬薬連携(32.9%)

3.令和6年度調査事業の結果 (1) 病院及び薬局調査

オ 薬剤師確保の取組状況①

- 利用したことのある求人方法について、病院は自院ホームページ、薬局は人材派遣会社が1位。
- 説明会への参加や開催は上位に入っていない。

<利用したことのある求人方法 (R4~6年度、複数回答可) >

	病院	薬局
1位	自院のホームページへの掲載 (79.5%)	人材派遣会社 (54.7%)
2位	民間の求人サイト・雑誌 (45.6%)	民間の求人サイト・雑誌 (46.3%)
3位	大学への求人情報の通知 (43.3%)	自社のホームページへの掲載 (45.6%)

3.令和6年度調査事業の結果 (1) 病院及び薬局調査

オ 薬剤師確保の取組状況②

- 採用等に係る取組みのうち、効果があるものについて、病院は見学の実施、薬局は奨学金の返還助成が1位。

<採用・雇用維持のための取組みのうち、効果があるもの（複数回答可）>

	病院	薬局
1位	病院見学の実施 (56.5%)	奨学金の返還助成制度(貸与を含む) の実施(75.9%)
2位	勤務条件(勤務時間や勤務時間帯等) の柔軟化(53.2%)	採用時の年齢制限の引き上げ (撤廃を含む) (62.7%)
3位	実習生の受け入れ・声かけ (39.2%)	薬局見学の実施 (61.5%)

3.令和6年度調査事業の結果 (2) 病院調査

ア 他病院等からの薬剤師の出向の受入れ状況

- 出向を受け入れている施設は2%程度。受入れ予定がない施設が6割弱。

〈受入れの有無〉

あり	なし
2.3%	97.1%

〈受入れの予定〉

回答	割合	未調整の理由
依頼予定	2.9%	-
受け入れたいが、未調整	5.8%	費用負担、依頼できる病院がわからない
その他	4.7%	-
受け入れる予定はない	57.3%	-
無回答	29.2%	-

3.令和6年度調査事業の結果 (2) 病院調査

イ 調剤助手及び薬剤助手の活用効果

- 調剤助手、薬剤助手のいずれも約半数近い施設が導入しており、導入施設の9割以上が業務負担軽減効果があると回答した

＜活用の有無＞

	調剤助手	薬剤助手
あり	43.9%	56.1%
なし	52.6%	36.8%

＜業務負担軽減効果＞

	調剤助手	薬剤助手
あり	97.3%	94.8%
なし	0.0%	2.1%

＜定数削減効果＞

	調剤助手	薬剤助手
あり(※)	54.7%(1.2人)	41.7%(0.8人)
なし	30.7%	42.7%

(※)カッコ内は平均削減人数

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

ア 奨学金等の借入状況

- 返済が必要な奨学金又はそれに類似する借入のある学生は約25%であり、返済予定金額の平均は712万円程度であった。

＜返済が必要な奨学金又は借入の有無＞

	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
あり	25.2%	19.8%	24.4%	25.5%	29.0%	28.2%	23.0%
なし	74.8%	80.2%	75.6%	74.5%	71.0%	71.8%	77.0%

＜返済予定金額の総額＞

	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
平均値 (万円)	712.5	711.1	672.8	784.1	777.4	712.7	555.0

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

以降は、既に就職活動を終了した学生(161人)に関する結果

イ 就職活動の開始及び内定の時期

- 5年生前期までに75.8%の薬学生が就職活動を開始。
- 内定時期は5年生後期が最も多いが、内定先が病院の場合は6年生前期が最も多く、病院は保険薬局(5年生後期が最も多い)よりも内定時期が遅い。

＜就職活動の開始時期＞

	4年前期	4年後期	5年前期	5年後期	6年前期	6年後期
全体	9.3%	19.3%	47.2%	20.5%	1.2%	0.6%

＜内定時期＞

	4年前期	4年後期	5年前期	5年後期	6年前期	6年後期
全体	0.0%	0.0%	1.9%	60.2%	34.8%	2.5%
病院	-	-	3.4%	13.8%	79.3%	3.4%
薬局等	-	-	1.0%	83.2%	15.8%	0.0%
その他	-	-	3.2%	29.0%	54.8%	9.7%

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

ウ 就職・進路決定済みの内定先

- 保険薬局(全国で展開)が最も多く、次いでドラッグストア(併設の保険薬局あり)であった。病院の中では、400床以上の規模が最も割合が高かった。

内定先	割合	
病院 (レジデント・研修生含む)	200床未満	1.2%
	200~399床	3.7%
	400床以上	13.0%
保険薬局	全国展開	34.2%
	地方展開、小規模、個人	2.4%
ドラッグストア	薬局併設	26.1%
	併設なし	0.0%
製薬企業、卸売業界、CRO等	12.4%	
行政機関	5.0%	
大学院進学	1.9%	

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

エ 内定先の年収（就職初年度）

- 病院は「300～400万円」、保険薬局等は「400～500万円」が最も多い。
- 「300万円未満」と「500～600万円」のカテゴリーにも違いがあり、就職初年度の年収は病院よりも薬局等の方が高い者が多かった。

	全体	病院	保険薬局等(※)	その他
300万円未満	8.1%	20.7%	2.0%	16.1%
300～400万円	36.0%	48.3%	32.7%	35.5%
400～500万円	31.1%	17.2%	37.6%	22.6%
500～600万円	10.6%	0.0%	14.9%	6.5%
600万円以上	3.1%	0.0%	2.0%	9.7%
わからない	9.9%	13.8%	8.9%	9.7%
無回答	1.2%	0.0%	2.0%	0.0%

(※) 保険薬局等：保険薬局又はドラッグストア（併設の保険薬局あり）

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

オ 薬局及び病院実習の前後での変化

- 薬局及び病院実習の前後で、4割近くの学生が就職先の希望を変えた。
- 実習前に病院を希望していた学生のうち、そのまま病院に就職する学生は5割程度だった。

＜実習前後での就職先の希望の変化＞

変わった	変わらなかった
37.9%	62.1%

＜就職先の希望が変わった場合、最も希望していた就職先別にみた内定先＞

最終的な内定先	実習前の希望先			
	病院	薬局等	その他	決めていなかった
病院	53.8%	6.0%	0.0%	27.3%
保険薬局等	38.5%	88.0%	25.0%	54.5%
その他	7.7%	6.0%	75.0%	18.2%
合計	100%	100%	100%	100%

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

力 勤務先の決め手となった要因

- 勤務先の決め手となった要因は「業務内容・やりがい」が最も多く、「勤務予定地」、「給与水準」などであった。

	項目	割合
1位	業務内容・やりがい	33.5%
2位	勤務予定地	14.3%
3位	給与水準	13.7%
4位	研修等スキルアップのための制度	8.1%
5位	キャリアパス	6.2%
	福利厚生	6.2%

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

キ 就職活動にあたり参加したプログラムや活用した求人情報等

- 説明会やインターンシップといった就職先と双方向でコミュニケーションのとれる方法が上位を占めた。
- 病院が利用している求人情報の上位項目（自院ホームページへの掲載、大学への求人情報の通知等）と、学生が利用している情報の入手手段との間に違いがある。

	項目	割合 (複数回答可)
1位	外部で開催される合同説明会	80.7%
2位	就職先が開催する個別説明会	68.3%
3位	インターンシップ	67.1%
4位	大学内で開催される合同説明会	51.6%
5位	就職先のホームページでの求人情報	29.8%

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

ク 内定先が病院以外の場合、病院に就職しない理由

- 1位は給与水準、2位は実習での経験、3位は働き方。上位3つで全体の約85%を占めた。

	項目	割合
1位	給与水準	48.5%
2位	病院実習を通じて、病院薬剤師として働けないと感じた	23.5%
3位	夜勤がある（夜勤シフトが柔軟ではない）	12.9%
4位	業務内容・やりがい	6.8%
5位	その他	2.3%

3.令和6年度調査事業の結果 (3) 薬学生調査

ケ 病院薬剤師に関する就職情報の入手

- 5割超の学生が病院薬剤師の就職情報を入手しようとしていたが、そのうち約2割が入手に苦労していた。

<①就職活動中に病院薬剤師の就職情報を入手しようとしたか>

はい	いいえ
54.7%	45.3%

<② (①で「はい」と答えた学生) 病院薬剤師の就職情報を入手できたか>

	できた	概ねできた	あまりできなかった	ほとんどできなかった
全体	23.9%	55.7%	17.0%	3.4%

<③ (②で「あまりできなかった」「ほとんどできなかった」と答えた学生) 病院薬剤師の就職情報を入手できなかった理由 (複数回答可) >

	入手しようとしたが、どこにアクセスすればよいのか、わからなかった	病院の募集案内等を見たが、情報が無かった	その他
全体	50.0%	55.6%	16.7%

3.令和6年度調査事業の結果（お知らせと御礼）

- 調査事業の結果及びまとめについては、事業報告書として県薬務課の薬剤師確保に関するホームページに掲載しています。
- 掲載場所は次のとおりです。
神奈川県の薬剤師確保対策について

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/n3x/yakuzaishi_kakuhotaisaku.html



- 御協力、誠にありがとうございました。

目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

4. 調査から得られた薬剤師確保の課題

調査結果より、次のとおり課題を整理した。

課題 1 病院と薬局間の勤務環境の違い

- 低い給与水準（初年度）
- 長い労働時間
- 実務実習後の病院志望の減少

課題 2 病院薬剤師の働き方に関する情報不足

- 採用情報の提供手段と入手手段の間のミスマッチ
- 情報の入手先が不明、内容の不足

目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

5.本県の取組み（令和7年度）

（1）有識者会議での事業（案）の検討

- 有識者による会議体にて、本県における対策の具体的な実施に係る事項等について検討。
- 令和7年度は年3回を予定。

（2）採用活動に関するノウハウ講習会の開催

- 病院及び薬局の薬剤師採用担当者向けに、今後の主体的な採用活動の実施のため、採用活動や就職相談会のノウハウ習得を目的とした講習会を開催。

病院・薬局共通編：令和7年11月19日(水) 18:30～19:30

病院編 : 令和7年11月26日(水) 13:30～14:30

- (株)マイナビの担当者を講師として、Webで実施。
- 両日合わせて、接続数として101名が参加。

5.本県の取組み（令和7年度）

（3）合同企業説明会への出展等

- 県内大学の協力により、大学で開催された合同企業説明会に複数の病院が出展し、薬学生に向けて各病院の説明を実施。
- （公社）神奈川県病院薬剤師会の協力により、県内で開催された合同企業説明会において、病院薬剤師の魅力を伝える講演を実施。

（4）病院薬剤師の確保に係る実態調査の実施

- 病院薬剤師の就労状況や偏在の推移等を継続的に把握するため、令和6年度調査を基にした継続調査を実施。

対象：県内に所在する全ての病院（330施設）

期間：令和7年12月8日～令和8年1月23日

方法：Webシステムを介したExcel調査票形式

- 皆様、御多忙の折、御協力誠にありがとうございました。
次年度も実施予定のため、引き続きの御協力をお願い申し上げます。

目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

6.薬剤業務向上加算と現在までの実績等について

令和6年度診療報酬改定 I-2 各職種がそれぞれの高い専門性を十分に発揮するための勤務環境の改善、タスク・シェアリング／タスク・シフティング、チーム医療の推進-④

薬剤師の養成強化による病棟薬剤業務の向上

薬剤業務向上加算の新設

- 病棟薬剤業務実施加算1（120点/週1回）について、免許取得直後の薬剤師を対象とした病棟業務等に係る総合的な研修体制を有するとともに、都道府県との協力の下で薬剤師が別の医療機関において地域医療に係る業務等を実践的に修得する体制を整備している医療機関が、病棟薬剤業務を実施する場合の加算を新設する。

(新) 薬剤業務向上加算 100点(週1回)



[算定要件]

病棟薬剤業務の質の向上を図るための薬剤師の研修体制その他の事項につき別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に入院している患者であって、病棟薬剤業務実施加算1を算定しているものについて、薬剤業務向上加算として、週1回に限り所定点数に加算する。

[主な施設基準]

- (1) **免許取得直後の薬剤師を対象とした病棟業務等に係る総合的な研修が実施されていること**として以下の要件を満たすこと。
- ア 研修を総括する責任者の配置及び研修の計画、実施等に関して検討するための委員会が設置されている
 - イ 十分な指導能力を有する常勤薬剤師が研修を受ける薬剤師の指導に当たっている
 - ウ 研修を受ける薬剤師の研修内容を定期的に評価・伝達する体制の整備及び研修修了判定が適切に実施されている
 - エ 調剤、病棟薬剤業務、チーム医療、医薬品情報管理等を広く修得できる研修プログラムに基づき研修を実施している
 - オ 研修プログラムを医療機関のウェブサイト等で公開するとともに、定期的に研修の実施状況の評価及び研修プログラムの見直しを実施している
- (2) **都道府県における薬剤師確保の取組を実施する部署と連携して自施設の薬剤師を他の保険医療機関（特別の関係にある保険医療機関を除く。）へ出向を実施させる体制**として、以下の要件を満たすこと。
- ア 出向先は、薬剤師が不足している地域において病棟業務やチーム医療等の業務の充実が必要な保険医療機関である
 - イ 出向する薬剤師は、概ね3年以上の病院勤務経験を有し、当該保険医療機関において概ね1年以上勤務している常勤の薬剤師である
 - ウ 出向先の保険医療機関及び都道府県における薬剤師確保の取組を担当する部署との協議の上で、出向に関する具体的な計画が策定されている
- (3) **特定機能病院若しくは急性期充実体制加算1、2に係る届出を行っている保険医療機関であること。**

6.薬剤業務向上加算と現在までの実績等について

(1) これまでの協議等の実績（※）

協議件数 : 4 件

相談、問合せ件数 : 12施設（協議を含む）

（※）県内で特定機能病院又は急性期充実体制加算1、2の届出を行っている保険医療機関 : 28施設
(関東信越厚生局HPより薬務課調べ(令和7年12月1日現在))

(2) 制度の活用等について

- 本加算は、出向者側の施設の病棟薬剤業務に関して、チーム医療の推進と薬物治療の質の向上を図る観点で令和6年度に新設されたものです。
- 一方で、受入れ側の薬剤師確保及び体制強化にも寄与する制度です。
- 県では、ホームページに出向の意向のある施設を掲載しています。
 - ・算定を検討している医療機関さま
→ 新たにリスト掲載を希望する場合は、薬務課まで御連絡ください。
 - ・受入や相談を希望する医療機関さま
→ 直接リスト掲載の問合せ先に御相談ください。

目次

1. 薬剤師確保を検討する経緯
2. 本県の取組み（令和6年度）
3. 令和6年度調査事業の結果
4. 調査から得られた薬剤師確保の課題
5. 本県の取組み（令和7年度）
6. 薬剤業務向上加算と現在までの実績等について
7. まとめ（最後に）

7.まとめ（最後に）

- 本日は、薬剤師確保を検討する経緯、これまでの県の取組み及び薬剤業務向上加算等について、お話ししました。
- この課題への取組みについては、各病院における活動の他、関係団体、大学、行政などが、それぞれの立場で、それに出来ることを実施していくことが重要と考えています。
- 県では、今後も皆様の御意見と御協力をいただきながら、必要な対策を検討し、実施していきます。
- 本日はご清聴ありがとうございました。
今後ともよろしくお願ひいたします。